



第五卷 第五号

発行所 方城村公民館和
編集所 荒木社印刷
印刷所 有限会社日印刷
小竹町 (旧西尾印刷有限会社)

◇原稿募集◇

- 一、論文随筆創作文芸評論何でも建設的なもの(取捨は編集部に一任)
- 二、詩歌俳句川柳一人二首二句
- 三、投稿締切 毎月五日
- 四、投稿先 方城村公民館

独立の春に思う

副館長 高津久雄

新聞に依れば、昨年九月サンフランシスコに於て、米英をはじめ四十八カ国の手で調印された。講和条約がトルーマン大統領の批准書名に依り四月二十八日に其の効力を発生することが報ぜられている。かくて日本は待望の独立を迎えるのだ。終戦後永い間、占領軍政下に置かれて、日本人自身の力と考えに依る政治と云うものが全々認められず一々マッカーサーの指揮を受けなければならなかったばかりでなく、民主主義の植付で不磨の大典を誇称した君主憲法が在民主権の憲法に改正されたり、男女同権の保障が戸主権と家を認めない改正民法の実現となったりした婦人の開放と参政権の附与、労働基準法の制定、農地開放の断行、六三制教育制度の実施、共同募金制度等々、目新しい制度が数多く実施され然し之等の制度の総てが必ずし

も日本の実情に適したものでなかつたようだし、必ずしも日本人の欲した制度ばかりでもなかつたようだと云え、独立を機会に徒らに、過去のあり方に対し何にか反発的、破壊的態度に出ることも慎重を期さねばならぬと思う。まず此の際吾等は独立の喜びを持つと共に、静かに自己を反省してみること必要である。

敗戦のもたらした最も大きい精神的打撃は何と云うても、日本人が日本人としての誇りを喪うたことであつた。自己を喪つた依頼心であり、場合に依つては不当に自己を卑下した精神であつた。米人の為すことは何事に拘らず、範とすべしと云う觀念であつた。婦人が真赤な口紅をつけて得々たる顔を、大人がチューインガムをかむことを以て文化人を氣取つて見たり一寸理解に苦しむ仕事

の数々があつた。然し最近講和の時来るの聲と共に、日本人間に日本人意識が漸次強く取り戻されて来つゝあることは喜ぶべき現象の一つであると思われる。

日本の社会で最も著しい跛行的存在は婦人の地位の問題であつた。見方に依れば婦人は男性の従物視される程度のものにしか過ぎなかつた。法律の上に於ても婦人は妻となることに依つて無能力者の扱を受ることになり、社会的にも一個の人格者としての待遇を受けなかつたものである。女房賢うして牛を売り損うとか雌鳥が歌うとか、婦人は何処までも内助者としての立場に於てしか認められず、日本人の地位は誠に恵まれぬ不自然の存在であつたことは事実である。終戦後占領軍が第一に手を付けたのが婦人開放の問題であつた。憲法に於て男女両性の平等が規定され、次に民法の条文から妻の無能力規定が削除された。

昭和二十二年四月十日は日本の女性をはじめ、与えられた参政権を行使して選挙に投票した記念すべき婦人開放の第一であつたのだ。婦人の立場から否、日本の社会制度の上から見て、之は大変な改革であつた筈である。

然るに農村婦人の現実はどうであるか？相変らず子供を生むこと、炊事をする、洗濯をすること、家の掃除をすること、それと野良の仕事に終日追いまわされている。甚だしい家庭に於ては日常の小使錢すら一々主人に貰う始末で折角女学校や中学、高等学校で勉強した知識を利用しようとしてないばかりか其の始末を忘れて、何等悔ゆる所もなく、現在では婦人雜誌はおろか、其の日の新聞でさえ読まぬ人になり切つて居る婦人が見受けられるが、無自覚と云えば、余りにも無自覚と云わねばならぬ。斯くては婦人の開放

は名のみで婦人自身の向上の望み難きは勿論のこと、其の弊は子弟の教育上にも、大きくは日本の再建にも影響する所が大きいことに思いを致さねばなるまい。婦人の恵まれぬ立場に對するあきらめと新しい事を好まぬ封建の習性から、もう婦人自身の力でぬけ出る時機が来ているのではなからうか？

国民の教育水準を、国際水準に引上げる為には、六年の義務教育を、八年に延長すべきであると言ふのは、戦前に於ける教育制度の改革意見であつた。終戦後占領軍の示唆で、所謂六三制の義務教育が実施された。敗戦直後の経済界混乱の中に中学建設の大事業が進められた結果、校舎の不足、教材の不整備、教職員の不適格等、雑多な不都合が招来された校舎建設等の問題で町村長が責任辭職したものが全国で約一八〇人もあつたと云うからは並大抵の事業ではなかつたと云うことが首肯される訳だが、中学教育も漸く軌道に乗つて来た感がある。本村に於ても第一次の増築に際しては寄附金問題で紛議が重ねられ、第三次の増築では位地の問題で兎角の意見はあつたが、曲りなりにも中学整備のあゆみは、進められている現状である。第三次の増築が二十六年度に完了し、二十七年年度と運動場が実現すれば一應設置の問題は完備する訳である。此の上は内容の充実である。それには何よりも先ずよき教職員を得ることが必要であると思ふ。現在村部にしても、炭坑方面にしても、文化の問題が執り上げられ、個人の教養が論じられ、生活の改善が叫ばれる雰囲気醸生されつゝあるが、之は海外からの引揚者又は都会からの疎開者に依る知識人の転入に負う所が多いようだ。十年一日の習性に慣れて来た農村には確かに新味のある刺激を与えたこと、思われる。農村にも農村

方城村少年團歌 試作

方城小学校長 森田 悟

一、
露も晴れる福智の嶺に
朝日の光さわやかに
輝き初める少年の
燃ゆる希望の方城村。

二、
文化の里の創造に
正義を誇る少年団
使命も重く雄らかに
吾等が行先には意義深し。

三、
斜陽も落ちて夕空に
またよく星も限りなく
意見に花咲く自治会は
明日の社会の建設譚。